

演習林記事

は し が き

演習林報告第3号までに連載した演習林記事を本年も掲載して、演習林の記録としたい。第4号には、主として昭和40年度分に限って掲載した。

I 人 事

1. 事務員早瀬鶴子は、40年8月1日付で大阪大学へ出向を命ぜられ、現在基礎工学部に勤務している。
2. 松沢事務主任は、40年10月1日付で出納員を命ぜられ、米野々作業所における諸給与支払い事務を担当することになった。

II 管 理

1. 40年4月20・21日、会計検査院の会計検査を受けた。
2. 従来、研究農場勝山圃場の一部を勝山試験地として使用していたが、昭和37年度に四国財務局の实地監査に際して、分離整理をすべき旨指摘されたので、40年12月1日付で、口座名・愛媛大学農学部附属演習林勝山試験地、区分・土地、種目・敷地、数量・1,444坪、価格・1,703,920円と台帳に記載せられた。

III 予 算 お よ び 決 算

演習林経営内規第45条第2項に基づき、演習林協議会の承認を得て、41年6月22日付で農学部長あて「演習林事業報告書」を提出したので、それによって昭和40年度予算および決算を記す。

昭和40年度予算および決算

A 演 習 林 歳 入 目 標 額

			3,179,000円
<hr/>			
歳 入 決 算			
素 材 (主 伐) ス ギ 他	3,160本,	564.925m ²	4,200,000
〃 (雪害木) ス ギ	1,034	25.464	224,644
苗 木 ス ギ, 他	20,493		55,922
合 計			4,480,566

歳出予算 校費

経常予算	2,946,000円
元賃金職員定員化振替	△130,000
庁費(学部内配分)	9,500
教官研究費(学部内配分)	173,727
自動車維持費(学内配分)	62,000
設備更新費	180,000
全上節約分	△18,000
小計	3,223,227
その他	145,009
計	3,368,236

旅費

職員事業旅費	108,000円
会議旅費	35,450
連絡旅費(学内配分)	11,200
教官研究旅費(学部内配分)	16,765
節約	△6,060
小計	165,355
その他	10,000
計	175,355
合計	3,543,591

歳出決算

種目	校費			旅費	計
	労賃	その他	計		
新補植	306,880円	33,311円	340,191円	—円	340,191円
苗畑	200,420	30,327	230,747	—	230,747
保育	353,200	85,707	438,907	—	438,907
学生実習	33,624	70,897	104,521	21,210	125,731
試験研究	—	192,766	192,766	49,060	241,826
調査	6,000	6,713	12,713	—	12,713
土木	—	9,044	9,044	—	9,044
伐採	1,502,699	8,131	1,510,830	3,300	1,514,130
雪害木処理	—	23,617	23,617	—	23,617
維持管理(本部)	—	198,515	198,515	91,695	290,210
維持管理(事務所)	—	186,255	186,255	10,090	196,345
小計	2,402,823	845,283	3,248,106	175,355	3,423,461
その他		120,130	120,130	—	120,130
合計	2,402,823	965,413	3,368,236	175,355	3,543,591

**Ｂ 庭 園
歳 出 予 算**

庭 園 管 理 経 費	109,750円
樹 木 移 植 費	199,000
全 上 節 約 分	10,920
合 計	297,830

歳 出 決 算

庭 園 管 理 経 費	101,955
樹 木 移 植 費	105,186
翌 年 度 へ 繰 越	90,689
合 計	297,830

Ⅳ 経 営

1. 5林班い小班のうち区域面積8.53haに生立していたモミ他4樹種計1,217本、約654m³を三洋木材KKによって伐採・造材・運材・集積して、素材で3,160本、約565m³（詳細はⅢ予算および決算の項参照）を得、41年1月18日公入札の結果丸和林業KKに売却した。
2. 39年3月18日の豪雪による1・2林班のスギ被害木（既報）は、その後職員によって整理中のところ、素材で1004本、25m³を得、公入札の結果三洋木材KKに売却した。
3. 40年2月24日破損（既報）した岩屋小屋林内林道木橋は、本部施設課所管で、渡部嘉十郎によって、11月20日着工、12月20日竣工、コンクリート橋にかけ替えられた。
4. 40年9月9日、1林班の神祠前で、山神祭を執行した。中島（幸）林科主任、高瀬次長（林長代理）外が列席した。
5. 40年12月7日、岩屋小屋林外林道第2橋梁が老朽破損して通行不能となったが、素材の買受者丸和林業KKが応急修理して素材の搬出を完了した。この橋は昭和41年度にコンクリート橋にかけ替えられる予定である。
6. 継続事業として愛媛県で施行中であつた4林班と私有林との境の堰堤は、本年度4個を建設した。これで、昭和37年度以降現在までに計14個となった。
7. 第2次経営計画については、編成方針書は40年6月17日、経営計画書は7月12日それぞれ農学部長に提出、承認を受けた。

Ⅴ 調 査・研 究

1. 演習林で実習並びに試験研究を行なう場合の取扱要領を40年11月1日付で次のとおり定めた。

演習林実習及び試験研究取扱要領

- 第1 愛媛大学付属演習林規程第6条に基づいてこの取扱要領を定める。
- 第2 演習林において実習又は試験研究を行なおうとするときは、次の様式の併に必要事項を記載して演習林長に提出するものとする。

演 習 林 実 習 伺
試 験 研 究

下記内容の
らい下さい。

を実施したいのでよろしく取り計

1. 題 目
2. 目的, 方法の概要
3. 施行予定場所および区域面積
4. 同伴教官名
5. 施行期間
(実習) 学生数 宿泊日数
6. 林木処理の種類別数量
7. 演習林の労力, 及び器具類の使用に関する種類別数量
8. そ の 他

年 月 日

演 習 林 長 殿

担当教官名 印

講座主任名 印

2. 1年以上にわたる試験研究は、各年度当初に前年度施行の経過報告を添えてこの伺を提出するものとする。

第3 演習林における試験研究は、演習林協議会運営規則第3条第1項第4号により、原則として演習林協議会に諮問し、演習林長が決定する。

2. その計画を変更しようとするときも同じとする。

3. 前項の規定にかかわらず、演習林長はその試験研究が演習林の経営に支障なしと認めた場合は、協議会に諮問しないで許可することができる。

第4 実習について従来から行ってきた内容のものについては直ちに許可できるが、新しく実施する内容のものについては第3項に準じて取り扱う。

第5 演習林実習または試験研究のため入山するとき、及びそれを終了したときはその旨を届け出るものとする。

2. 実施した試験研究についてはその経過の概要を報告するものとする。

第6 演習林長はこの取扱要領により施行した試験研究の伺、経過報告、及び終了届に基づき、台帳を作成し保存するものとする。

付 則

1. この取扱要領は昭和40年11月1日から施行する。

2. この取扱要領施行の日において、現に施行中の試験研究については、この取扱要領によって、あらためて演習林長と協議するものとする。

2. 40年9月、演習林報告第3号を発行し、従前どおり国内関係機関はもとより、国外では14ヶ国45の大学および試験研究機関に配布した。アメリカ・スウェーデン・スイス等からは多数文献の寄贈があった。

3. 昭和40年の気象観測は第2表のとおりである。なお（ ）内は昭和39・40年両年の観測値の平均値である。

4. 固定標準地を1・2林班のスギ・ヒノキ林内5ヶ所に設置し、それぞれ測定した。

5. 2林班わ小班にワサビ田約5㎡を試作した。

6. 40年11月より、森林計画学講座藤本助教授は、米野々事業区内のスギに対して、「生長錐挿入の樹木に及ぼす影響について」と題する研究を実施中である。

7. 40年10月、高知市で開催せられた日本林学会関西支部大会において、高瀬助教授は「偏心した樹幹横断面の解析的研究」と題し、又高瀬助教授、渡部助手は連名で「一変数幹材積表補助表」、「樹冠曲線について」と題しそれぞれ発表した。

VI 職 員 研 修

1. 40年6月14日 愛媛県森林組合連合会で、高知大学福田次郎教授により「造林の機械化について」講演あり、高瀬助教授、大西・渡部助手が聴講した。

2. 40年10月1日 技術職員は、農業祭会場のうち林業試験場を見学した。

3. 40年11月19日 技術職員は三新機械KKの技術者により、下刈機の構造および取扱法について受講した。

4. 40年12月3日 尾上技官は、架線技士講習会を受講した。

5. 41年1月17日 大西助手は、技術職員に対しワサビ栽培について、午前中講義をし、午後2林班のワサビ田に植付実習をした。

6. 41年2月26日 および3月2日、渡部助手は技術職員に対し、次のスライドの映写をし、解説した。シイタケの栽培、林業の機械化“軽架線”、日田林業、智頭林業、緑の森林、学校植林、植物の生長。

7. 41年3月8日から12日まで、高瀬助教授は本学に設置されるHIPAC 103コンピューターのプログラム講習会を受講した。

8. 41年3月18日から24日まで、大西助手・三好技能員は、西条・新居浜・高松・その他において、苗畑、部分林経営、庭園樹育成等を視察した。

9. 40年5月24日から26日まで、渡部助手は広島県で開催された林業試験研究推進体制近畿・中国・四国地区協議会赤松専門部会現地検討会に出席した。

VII 演 習 林 協 議 会

1. 40年5月28日 第8回演習林協議会を開催、第2次経営計画編成方針書（案）に関する件、昭和40年度事業予定に関する件、演習林実習試験研究内規（案）を付議した。

2. 40年11月9日 第9回演習林協議会を開催、昭和40年度実行予算に関する件、演習林実習試験研究内規に関する件、昭和40年度演習林試験研究に関する件を付議した。

3. 41年2月4日 第10回演習林協議会を開催、演習林の現状における問題点に関するアンケートについてを付議した。

第 2 表 () 内は昭和39・40年平均値

種目別	月 別												計	平 均	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
気 温	平 均	0.7 (1.6)	-0.3 (0.1)	1.8 (2.8)	7.0 (11.0)	12.6 (13.3)	16.8 (16.9)	21.6 (21.9)	20.5 (21.4)	15.3 (17.4)	10.3 (12.1)	7.9 (7.6)	1.8 (2.6)	116.0 (128.4)	9.7 (10.7)
	最 高	3.6 (4.4)	3.2 (3.1)	6.6 (7.3)	12.0 (15.6)	17.6 (18.4)	21.1 (20.8)	25.8 (26.0)	26.5 (26.7)	19.5 (21.2)	15.2 (16.3)	11.8 (11.3)	4.7 (5.4)	167.6 (176.1)	14.0 (14.7)
	最 低	8.5 (10.5)	10.5 (11.3)	12.5 (16.0)	19.0 (22.3)	23.5 (24.0)	26.0 (25.8)	30.0 (29.3)	30.0 (18.5)	29.5 (17.6)	26.0 (26.5)	19.5 (8.4)	18.0 (3.8)	13.0 (-0.7)	236.0 (247.5)
湿 度	平 均	-2.5 (-1.4)	-3.0 (-2.6)	-2.0 (-1.7)	2.8 (7.2)	8.1 (8.8)	13.0 (13.4)	18.0 (14.1)	16.4 (17.6)	11.4 (14.1)	6.4 (8.4)	3.5 (3.8)	-0.9 (-0.7)	71.2 (85.4)	5.9 (7.1)
	最 低	-6.0 (-5.5)	-7.0 (-6.5)	-6.0 (-5.5)	-3.0 (1.8)	2.0 (3.0)	8.5 (8.5)	12.0 (13.3)	13.5 (14.8)	5.5 (7.5)	3.0 (4.5)	-1.0 (-1.8)	-7.5 (-5.5)	14.0 (28.5)	1.2 (2.4)
降 水 量	平 均	65 (69)	63 (67)	58 (62)	58 (66)	62 (64)	69 (72)	70 (71)	67 (71)	67 (70)	65 (66)	69 (68)	73 (70)	786 (813)	66 (68)
	低 極	38 (37)	35 (33)	13 (18)	10 (14)	10 (12)	20 (24)	45 (42)	22 (32)	15 (23)	18 (24)	33 (30)	40 (37)	299 (323)	25 (27)
蒸 発 量	月	93.5 (82.6)	28.1	41.6 (49.6)	144.9 (184.4)	199.0 (163.3)	295.3 (341.4)	316.5 (206.5)	88.2 (133.5)	-494.0 (353.1)	73.8 (80.7)	143.2 (130.0)	94.2 (55.4)	2012.3 (1780.3)	167.7 (148.4)
	平 均	3.0 (1.5)	1.0 (0.6)	1.3 (1.6)	4.8 (6.2)	6.4 (5.3)	9.8 (11.4)	10.2 (6.7)	2.8 (4.3)	16.5 (11.8)	2.4 (2.6)	4.8 (4.4)	3.0 (1.8)	66.0 (57.9)	5.5 (4.8)
	最 大	—	—	—	45.3 (45.8)	60.2 (49.8)	93.4 (99.2)	73.0 (57.6)	47.8 (75.0)	145.6 (134.0)	44.0 (22.0)	19.6 (22.7)	—	—	—
	6 時 間 最 大	—	—	—	26.2 (28.5)	29.0 (30.1)	52.2 (54.1)	42.0 (38.5)	47.8 (53.2)	87.4 (84.9)	32.4 (16.2)	14.0 (18.1)	—	—	—
蒸 発 量	月	—	—	—	19.4	71.0	48.5	50.9	67.4	61.0	55.2	32.7	5.2	—	—
	日 最 大	—	—	—	3.0	4.8	4.0	3.0	3.8	5.0	4.0	2.2	—	—	—

気温：度， 湿度：%， 降水量・蒸発量：mm

Ⅷ 全国大学演習林長協議会

全国大学演習林協議会総会への出席者は次のとおりであった。なお、本年度は演習林からの提出議案等はなかった。

1. 昭和40年4月12・13日 於東京大学農学部会議室（3号館）
会議出席者、演習林長 松島良雄，演習林次長 高瀬五郎
2. 昭和40年10月27・28日 於宮崎大学農学部
会議出席者、演習林長 松島良雄，事務主任 松沢匡房

Ⅸ 学 生 実 習

40年度中に実施された演習林実習は下記のとおりである。

実 習 種 別	期 間	担 当 教 官	学 生
森 林 計 画 学	40年7月7日～12日	山畑教授・藤本助教授・玉井助手	4回生 25名
森 林 土 木 学	40年7月12日～15日	山田教授・伏見助手	4回生 25名
林 木 測 定 学	41年3月6日～11日	山畑教授・藤本助教授	3回生 23名
造 林 学	41年3月11日～14日	中島教授・金子助教授・辻田助手	3回生 22名

外に造林学実習のうち育苗実験実習は、勝山試験地において年間を通じて実施している。

X 学 部 構 内 樹 木 の 管 理

農学部総合建設の進展に伴い、学部構内樹木の 移植，除去等ますます多忙となった。本年度内に、仮植地に移植したもの158本，除去したもの63本である。

XI 消 防

1. 40年12月1日 農学部事務長補佐，庶務係長，演習林事務主任その他が，管理事務所で，防火自主検査を行なった。
2. 41年3月19日 日浦地区消防団員5名によって，全事業区内の防火診断を実施した。
3. 40年10月5日 岩屋小屋滝山所在民有林から。また同月11日岩屋小屋アラ谷所在民有林からそれぞれ出火した。演習林に近いためもあり。全所員が消火に協力した。